

技術・家庭科[家庭分野]学習指導案

指導者 浦 上 千 歳

日 時 平成26年11月22日（土）第1校時（10：00～10：50）
年 組 中学校第2学年2組（後半グループ） 計20名（男子10名，女子10名）
場 所 中学校家庭科室
単 元 「子どもたちに布絵本を贈ろう」

単元について

本校家庭科では、昨年度まで、科学的な見方や考え方を習得する材料として、「文化的・伝統的な視点」を取り入れた授業を提案してきた。そして今年度は、そこに「かかわり」「つながり」を尊重できる個人をはぐくむ視点を加えた授業提案である。2013年11月，第37回ユネスコ総会において。「国連E S Dの10年」（2005～2014）の後継プログラムとして「E S Dに関するグローバル・アクション・プログラム（G A P）」が採択された。文部科学省の日本ユネスコ国内委員会でもE S D（持続可能な開発のための教育）を取り上げ，その実施においての二つの観点を示している。それは①人格の発達や，自律心，判断力，責任感など人間性を育くむこと，②他人との関係性，社会との関係性，自然環境との関係性を認識し，「かかわり」，「つながり」を尊重できる個人を育むことである。特に②に関しては，家庭科教育の目的とするところである。そこで，家庭科の授業の中でそれを実現するため，作品製作の最終ゴールの設定を完成するだけでなく，活用することも重点をおいていく。すなわち，何かに，誰かに役立つ学習場面を設定することで，かかわりを尊重する個人の育成につながり，さらには持続可能な開発のための人材（グローバルな人材）の育成につながると考え，本単元を設定した。本単元は，「衣生活と自立」と「家族・家庭と子どもの成長」の領域の内容を融合して構成している。これまで，「衣生活と自立」の領域でいろいろな繊維，「家族・家庭と子どもの成長」の領域で幼児と遊ぶおもちゃづくりを学習していた。本単元では，文化的な内容を加えてこれらの領域を関連づけて構成することで，おもちゃ作り（本校では絵本作り）を単なる道具作りから，例えば，モン族の子どもたちに製作した絵本を贈るというように対象者を意識した「ものづくり」に発展させて設定した。布に関する学習では，その特徴だけでなく，私達の衣服としての歴史的な変遷を知ることで，衣生活に対し，興味・関心を高めさせることをねらいとしている。また，子どもに関する学習では，文化財が不足している国の子どもたちと文化財の豊かな国の子どもたちを比較することで，子どもたち自身は世界共通であるにもかかわらず，それを取り巻く環境に大きな隔たりがあることに課題意識をもたせることをねらいとしている。学習の最後に，布絵本の製作を行い，自分たちの行動につなげられるようにした。この一連の学習によって，人や社会とのかかわりを実感することができるよう設定した。

これまで生徒は，1年生で「衣生活と自立」の領域で衣服の選択と手入れについて学んできた。『衣服の選択』では，目的に応じた着用・計画的な活用について，また，手入れでは材料や状態に応じた洗濯を中心に学んできた。文化的内容として，2年生になって，衣服の構成（和服と洋服の構成の違い）を学んできた。また，「家族・家庭と子どもの成長」の領域では，近接環境である家族とのかかわりや家庭の役割を学んできている。そして，子どもの成長については，3年生で学習する予定である。生徒の布に関する知識は大変乏しく，その手入れにおいては，親任せの生徒がほとんどである。したがって，衣生活に関わる文化について，十分に知識を身につけていない実態がある。

したがって指導に関しては，まず生徒の知識が乏しい衣服を構成する布に関する学習を行う。その際，その特徴や性質と合わせて，歴史的な内容を多く扱うことで，知識の定着が高まるようにしていきたい。

次に、日本において庶民の文化として生活の中にあった藍染めを取り上げ、日本だけでなく、世界各地に藍染めの文化があったことを示しながら、世界共通で布は人の生活を支えてきたことに気づかせたい。これらの一連の学習で、社会との関係性を認識することになり、故人とのかかわりや世界の人とのかかわりを意識できるようになるだろう。また、現在も自分たちの衣服を糸から製作している“針と糸の民”と言われるモン族の衣装・布を取り上げ、かつての日本の庶民の衣生活を想起させる。今回、布絵本の製作の対象者をモン族の子どもたちとした。子どもの学習において、文化財の豊かな日本の子どもと文化財が不足しているモン族の子どもたちが絵本の読み聞かせを受ける映像を見せ比較させる。この視聴により、環境が違う中で育っている子どもたちであっても、子どもたち自身は同じように生活していることを実感させたい。そして、豊かな国で暮らす私たちが、モン族の子どもたちにできること、役立つことを考えさせる材料としたい。こうして、モン族の子どもたちについていろいろな角度から考え、活動させることを通して、かかわりを尊重する個人を育成することを意図した。最終的には、できあがった布絵本を、モン族の村の保育園に送れるようにしていきたい。

指導目標

1. 日本の衣生活の歴史を理解して、布の文化を生かした布絵本を製作することができるようにする。
2. 布絵本を媒介として、人とのかかわりを尊重できる態度を養えるようにする。

指導計画

- | | | |
|------------------------|------------|----------|
| 1. これまで私たちは何を着てきたか | ・・・・・・・・・・ | 1 時間 |
| 2. 布は世界をつなぐ | ・・・・・・・・・・ | 1 時間 |
| 3. 子どもたちを知ろう | ・・・・・・・・・・ | 1 時間 |
| 4. 絵本で私たちの思いを伝えよう！（製作） | ・・・・・・・・・・ | 3 時間 |
| 5. 布の絵本は世界の子どもたちの心をつなぐ | ・・・・・・・・・・ | 1 時間（本時） |

本時の目標

布絵本の製作を通して、子どもたちに自分たちの思いを伝えることができる。

「学びのつながり」の視点

科学的な見方や考え方を習得する材料として、「文化的・伝統的な視点」を取り入れる。Ⅲ期では、“生活を科学的にとらえた実践”として布の文化を扱い、布を生かした製作を行う。布絵本の製作に際しては、学習により得た知識を表現させ、さらに、モン族の子どもたちのための「ものづくり」にすることで、地域社会とのかかわりを仕組んだ「ものづくり」とする。この一連の学習を通して、自分と間接的に対応する人を取り巻く遠隔環境への視点を生むことができるだろう。

学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点（◆評価）
1. 導入（10分） □これまでの学習内容を振り返る。 ・布の特徴や性質と衣服の歴史 ・モン族について ・子どもたちを取り巻く環境とそこに暮らす子どもたち ・布絵本の良さ 2. 展開（35分）	○授業を映像（アクティブボードなど）で振り返ったり、ワークシートを読み直すなどして、これまでの学習を想起させる。
子どもたちの心をつなぐ布絵本を発表しよう	
□布絵本への思いをまとめる。 ・布絵本のテーマと製作において工夫した点を画用紙にまとめる。 □布絵本の交流をする。 ・他グループの布絵本をグループ内で読み聞かせする。 ・他グループの布絵本についてコメントを書く。 ・コメントを交流する。 3. まとめ（5分） □布絵本の交流で感じたことをまとめる	○モン族の子どもたちを意識して工夫した点をまとめさせる。 ○グループ内で、読み聞かせ役と幼児役になり、鑑賞させる。 ○幼児の立場に立って感じたことを書くよう助言する ○コメントは交流しやすいように付箋に書かせる。 ◆自分たちが子どもたちに伝えたかった思いを伝えることができる。 【生活を工夫し創造する能力】 ○他グループからのコメントを読み、自分たちの思いがどの程度伝わったのか、自分たちの布絵本を評価させる。

参考文献

- 田中優子. 『布のちから—江戸から現代へ—』. 朝日新聞出版. 2011.
- 文部科学省. 『中学校学習指導要領解説 技術・家庭』. 教育図書. 2008.
- 小野恭子・大竹美登利. 『日本家庭科教育学会誌第57巻第2号』. 2014.
- 『地球アゴラ』（2008年11月16日NHK BS1放映）
- 浦上千歳・柴静子「生活文化力を培う家庭科の授業づくり—伝統・文化の視点を取り入れた授業を通して—」. 『広島大学附属東雲中学校研究紀要 中学教育』第44集. 2012. pp. 88-94.
- 浦上千歳・柴静子「生活文化力を培う家庭科の授業づくり(2)—モン族の子どもたちに贈るジャパンブルーの絵本バッグの製作を通して—」. 『広島大学附属東雲中学校研究紀要 中学教育』第45集. 2013. pp. 89-95.